

## 利用者クライアントソフト（Windows 版）の注意事項について

利用者クライアントソフト（Windows 版）について、動作検証の結果、設定に関する注意事項が判明しておりますので、以下に示します。

### 記

#### (1) InternetExplorer (64bit 版) での Java アプレットの問題

##### 【発生事象】

InternetExplorer 11 (64bit 版) 環境の 64bit 版 Java アプレットが正しく動作しない。

##### 【回避策】

インターネットオプションから下記の設定を確認してください。

- ・接続するセキュリティゾーンの保護モードが有効になっていること。
- ・Windows7 の 64bit 環境において、拡張保護モードが有効になっていること。
- ・Windows10 と Windows8.1 の 64bit 環境において、拡張保護モードで 64 ビットプロセッサでの動作が有効になっており、拡張保護モードが無効になっていること。
- ・接続するセキュリティゾーンのセキュリティレベルが「高」でないこと。  
(セキュリティゾーンの設定については、各 Java アプレットの動作を行うページの案内に従って設定してください。)

#### (2) Windows10 及び 8.1update 環境でのハイコントラストの問題

##### 【発生事象】

Windows10 及び 8.1update 環境のデスクトップ背景がハイコントラストの場合、利用者クライアントソフトの「証明書表示機能」、「動作確認機能」及び「オンライン失効申請機能」において文字が読み取りにくくなる。

##### 【回避策】

デスクトップの背景設定においてハイコントラストモードを使用しないでください。

#### (3) Windows10 及び 8.1update 環境での利用者クライアントソフトの画面が表示されない問題

##### 【発生事象】

Windows10 及び 8.1update 環境において利用者クライアントソフトで「ポータルサイト表示機能」または「ヘルプ表示機能」を使用すると、Modern UI スタイルの Internet Explorer が起動し、全画面に表示された状態となる。

この状態で Internet Explorer を終了すると、Modern UI のスタート画面に遷移し、デスクトップ上で動作している利用者クライアントソフトの画面が表示されない場合がある。

### 【回避策】

デスクトップ上で動作している利用者クライアントソフトの画面が表示されない場合は、下記の操作を実施してください。

- ① Modern UI スタイルの Internet Explorer が起動した場合は、「Alt」 + 「Tab」キーを押し、デスクトップ画面に復帰させる。
- ② Internet Explorer のインターネットオプションの「リンクの開き方を選択 (L)」に「常に Internet Explorer で開く」が設定されている場合は、下記のいずれかの設定に変更する。
  - ・「Internet Explorer で自動的に判定する」
  - ・「常にデスクトップ用 Internet Explorer で開く」

## (4) 古いメジャーバージョンの JRE が先にインストールされている環境の場合、「Java 実行環境への登録」が失敗する問題

### 【発生事象】

古いメジャーバージョン (JRE7 など) の JRE がインストールされている環境に JRE8 をインストールし、スタートプログラムの「Java 実行環境への登録」を実行した場合、「Java 実行環境がインストールされていません。」というエラーが発生し、「Java 実行環境への登録」が失敗します。

### 【回避策】

(回避策 1) 古いメジャーバージョン (JRE7 など) の JRE をアンインストールする。

(回避策 2) エクスプローラ内のショートカットから「Java 実行環境への登録」を実行する。

(回避策 2) の実行手順は以下のとおりです。

- ・ Windows7 および Windows Vista の場合

スタートプログラムの「公的個人認証サービス」フォルダ内の「ユーティリティ」を右クリックし、メニューからエクスプローラーで開き、「Java 実行環境への登録」をクリックすることにより、「Java 実行環境への登録」を行うことができます。

- ・ Windows 8.1update の場合

アプリ一覧から、「Java 実行環境への登録」を右クリックし、「ファイルの場所を開く」を選択してエクスプローラーを開き、「Java 実行環境への登録」をクリックします。

- ・ Windows 10 の場合

すべてのアプリから、「公的個人認証サービス」フォルダを選択してエクスプローラーで開き、「Java 実行環境への登録」をクリックします。

(5) Microsoft Edge で Java アプレットが実行できない問題

**【発生事象】**

Microsoft Edge は、Java のプラグインをサポートしていない為、Java アプレットが実行できない。

**【回避策】**

Internet Explorer 11 をご利用ください。

(6) すべてのアプリの「公的個人認証サービス」フォルダ内に「ユーティリティ」フォルダが表示されない問題

**【発生事象】**

すべてのアプリの「公的個人認証サービス」フォルダ内に「ユーティリティ」フォルダが表示されない。

**【回避策】**

Windows10 では、すべてのアプリに公的個人認証サービスフォルダが登録されます。登録された公的個人認証サービスフォルダ内にはショートカットのみが配置され、ユーティリティフォルダが表示されませんが、エクスプローラ上では「ユーティリティ」フォルダは作成されており、正しく配置されています。

本事象はOSの仕様によるものであり、ショートカットは正常に動作しており、利用者クライアントソフトの動作に影響はありません。

(7) 「画面上の文字を大きくする機能」を利用した場合、メニュー画面等が正常に表示されない問題

**【発生事象】**

Windows 7 から追加された「画面上の文字を大きくする機能」を利用した場合、利用者クライアントソフトのメニュー画面等、一部の画面が正常に表示されない。

**【回避策】**

「画面上の文字を大きくする機能」は使用しないでください。

(8) 「アプリのインストール」設定を「ストアのアプリのみ許可する」にした場合、利用者クライアントソフトのインストールができない

**【発生事象】**

Windows10 CreatorsUpdate から追加された「アプリのインストール」設定で「ストアのアプリのみ」を選択した場合、利用者クライアントソフトのインストールが出来ない。

**【回避策】**

利用者クライアントソフトのインストール時は、「アプリのインストール」設定を「ストア以外からのアプリをインストールする前に警告する」又は「任意の場所のアプリを許可する」に設定してください。

以上